

2016年7月1日

神奈川 AOU 会員各位

神奈川 AOU 事務局

神奈川 AOU 中国市場／GTI ショー視察レポート

昨年度実施された神奈川 AOU の中国市場ならびに GTI ショーの視察について、以下に概要をご報告します。

記

【1】実施報告

アーケードマシンのトレードショーとしては世界最大規模の、広州 GTI ショーならびに中国アミューズメント施設の視察を企画、実施。

平成 27 年 6 月 19 日に開催された神奈川県アミューズメント施設営業者協会通常総会にて議長より提案、賛成多数で可決され、全会員に書面にて募集告知。

目的は、GTI ショーならびに成長著しい中国 AM 市場の視察を通じ、会員各社に停滞する日本型アミューズメントオペレーション再興のヒントとしていただくこと。

(1)募集要項:2015 年 6 月に神奈川 AOU 全会員に告知、1 社 1 名のみ協会が航空券代を負担

(2)参加実績:8 社 8 名

(3)実施期間:2015 年 8 月 28 日(金)～30 日(日)2 泊 3 日

(4)視察場所:中国広州市

(5)日程:2015 年 8 月 28 日(金) 成田空港 09:30→広州空港 13:25

到着後、広州市内ゲームセンター視察

GTI ショー出展社情報交換会出席

8 月 29 日(土) GTI ショー、星力動漫地区の各社ショールーム視察

ワラップ社パーティー出席

8 月 30 日(日) 午前パニューウ地区のゲームセンター視察

広州空港 14:35→成田空港 20:00

【2】GTI ショーについて

2009 年よりスタートし第 7 回を数える GTI ショーは、まさに世界最大のアミューズメントマシンショーとも言えるほどの大盛況でした。

スタートした当初は、展示機械の 7～8 割程度が日本製品もしくは日本製品のコピーで、中国製品

は完成度も低く、まだまだ日本のメーカーの脅威になるようなことはないと思いましたが、回を重ねる毎にオリジナルの比率が増え、出展ジャンルが幅広く、また、同じジャンルの中でもたくさんのメーカーが競合し合い、完成度の高い製品を作るようになってきました。

マニアなジャンルに偏った近年の日本のショーとは違い、マシンのすそ野が広い、見応えのあるショーとなっています。

出展製品の特徴は、定番もののクレーン機、キッズライドに加え、今回は、クオリティは別として、VR マシンが多く見受けられました。

会場には何百人もの日本人の業界関係者が来場し、皆さん一様に熱気と活気に感心されていました。

以前は「安かろう、悪かろう」と評されていた中国製品も、現在はほとんどのオペレーターが多かれ少なかれ導入実績がある中で、今後、中国の商品をいかに活用できるかが日本のオペレーション再生のカギになってくるのかも知れません。

視察日が1日しかないことがもったいないと思えるほど、皆が出展マシンを1台1台真剣な眼差しで見っていました。いずれかのゲーム機が日本のゲーム業界にとって、また昔のような活気を呼び戻す刺激になってくれればという思いからだったと思います。

また、ショーの後に星力動漫地区という、ゲームメーカーが100社以上集まりショールームが街のように並んでいるエリアを視察し、その規模に参加一同驚きました。

(1)名称: 広州アミューズメントマシン国際産業展(GTI ASIA CHINA EXPO 2015)

(2)開催場所: 中国/広州市

(3)開催期間: 2015年8月28日~30日

(4)出展社数: 252社

(5)来場者数: 未集計だが、バッジ20,000枚配布、入場カウントは53,905回

(6)特徴: 台湾の業界団体GTIの主催。中国国内のアミューズメント関連ショーとしては年間最大。

(7)参加者感想:

- ①ショーは活気があってとてもいいと思ったがOEMなのか、同じゲーム機の装飾だけが違うものがかなりあったので、どのような仕組みになっているのか気になった。
- ②日本のアミューズメントは元気がないので海外から仕入れる、海外に出て行く、どちらにしても今回知り合った方達とつながっていきたい。
- ③日本より出展メーカーも多く活気があり、思った以上にレベルの高いマシンも多くあった。
- ④今後は日本のみならず、中国などでも、良いマシンならば、国を問わず、導入していきたい。
- ⑤人と熱気と出展機械の多さに圧倒された。





【3】中国のゲームセンター

広州市最大の天河城はじめ、大小 5 軒のゲームセンターを視察しました。

中国のゲームセンターの特徴は、日本と違い、現金を直接ゲーム機に投入することはありません。主な方法は2つ、ひとつはプレイヤーがまず現金を「トークン」というゲーム専用のメダルに変えて、それぞれゲームの設定により、トークンを必要数投入すること。トークンは1枚約1元(≒18円)で、クレーンゲームが1ゲーム2~3枚、日本のアーケードゲームが4枚程度です。



メダルゲームも同じトークンで遊びますが、メダルアウトはなく、勝った枚数のリデンプションチケットが出てきて、好きな景品と交換することができます。

もうひとつは、イオンファンタジーさんなど、主に大手チェーンが採用している、ゲームカードシステムです。ハウスカードに好きな金額をチャージし、ゲームごとに設定された金額で遊ぶことができます。

このカードについてですが、現在、中国では買い物や消費のキャッシュレス化が急速に進んでいます。レストランで食事をしていて中国の方が、会計時に店員さんにスマホの画面を見せて何かしっていたので尋ねてみると、スマホの画面に映し出されたIDで会計をしているということでした。アリババの決済サービス「支付宝(アリペイ)」や、対話アプリ「微信(ウィーチャット)」での、物販店やレストランでの支払いが、現金やクレジットカードに代わり、生活の中でごく当たり前になっているのです。

例えば、みんなで一緒に食事をした時、誰かがまとめてアリペイで店に支払いをし、割り勘で一人2,835円ずつだったとすると、その場で居合わせた皆がその人にアリペイで送金して精算終了。対店だけでなく、対個人同士でも電子マネーでやりとりができる、それが中国の現在の姿なのです。

大手のゲームセンターの経営者にお聞きした話ですが、自社のチェーン店で半年前にアリペイなどが利用できるシステムを導入したところ、現在、カードのチャージの30%以上がアリペイやウィーチャットからの決済だそうです。

日本のオペレーターが、カードシステムを何年もかけてやるのやらないのと言っているうちに、中国ではほぼ半年ぐらいでそこまで進んでしまっていることに、改めて驚かされることとなりました。

参加者感想:

- ①行く前は規制が入ったのであまり元気がないと思っていたが、実際は日本よりは全然活気があってパワーを感じた。
- ②中国のゲームセンターはまだかなり模倣品などがあり、ゲームセンターだけではないと思うがクリーンで法的に完成された業態にはなっていないように感じた。
- ③物価は日本よりは多少安く、衛生面は少し厳しい感があった。
- ④思った以上に発展しており、物価も日本と大きくは変わらない印象。
- ⑤ゲームセンターにお客様がたくさんいて、かつて活況を呈していた頃の日本のゲームセンターを思い出した。
- ⑥リデンプション、ゲームカードシステムなど、日本よりも進んでいて参考になった。
- ⑦日本ではあまり見ることのないカーニバル系マシンの種類が多く、また、有人での縁日風のゲームの演出等、是非取り入れてみたいと思った。

【4】中国の経済について

中国の経済と現在の状況について、中国を理解する上で非常に参考になる講演がありましたので、ご紹介させていただきます。

日時:2016年5月27日

場所:日本工業倶楽部会館

講演:元伊藤忠商事株式会社社長 元中華人民共和国駐在特命全権大使

日中友好協会会長 丹羽宇一郎 様

演題:『激動する世界、激変する中国』

現在、大変な勢いで世の中は変わっています。そしてそこには共通の一つの流れがあります。

「62=36億」という言葉をご存じでしょうか？

これは、62人のお金持ちと、世界の人口の約半分の36億人の資産がほぼイコールであるという調査結果です。

現在、日本の就業人口の非正規雇用者の割合は40%と言われています。そして、正規雇用の賃金を100とすると、非正規の賃金は約60%です。ヨーロッパの平均は70-80%であり、日本はその格差が大きいことが問題となっています。

アメリカの人種別人口構成比は、白人62%、ヒスパニック18%、黒人12%、アジア系6%です。

大統領選出馬のトランプ氏を支持する人は下層階級の白人が多いと言われています。

このようなデータがあります。アメリカで「自分を中流と思うか？」という調査をしたところ、かつてはイエスが60%だったのが、現在は44%です。

同じく「自分を下流と思うか？」という質問には、かつてイエス25%、現在は40%です。

このような反知性主義、エリートでない人たちがトランプを支持しているのです。

また、シリアでは毎日多くの人が亡くなっています。移民の問題は、日本に飛び火しなければいいのか、日本人だけがよければいいのか、そのことが今、世界の中で問われています。

今、アメリカだけで世界を支配できる時代、パックスアメリカーナは終わりました。アメリカがやってきたことは失敗し、世界の約半分が貧困になってしまいました。

アメリカの力が落ちて中国が台頭し、中国には大国としてのその自覚がきちんとできています。巷間言われるように、中国が発表する数字は嘘ばかりということは決してありません。

中国はご存じのように一党支配の国です。経済も政策も、やると決めれば、そのスピードは日本とは比べ物にもなりません。

日本のマスコミは中国の成長は止まった、勢いはなくなった、バブルは終わったと、中国を揶揄するような報道を流せば、日本国民が喜ぶと思っています。

しかし、そのことが、日本人が中国の実力を直視しない、見誤る原因ともなってしまう危険性をはらんでいます。

このような資料があります。

アジアの名目 GDP(USドル)ランキング

順位 (世界)	名称	単位: 10億USドル	前年比	地域	推移
1位 (2位)	<input type="checkbox"/> 中国	10,982.83	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
2位 (3位)	<input type="checkbox"/> 日本	4,123.26	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
3位 (7位)	<input type="checkbox"/> インド	2,090.71	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
4位 (11位)	<input type="checkbox"/> 韓国	1,376.87	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
5位 (16位)	<input type="checkbox"/> インドネシア	858.95	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
6位 (22位)	<input type="checkbox"/> 台湾	523.58	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
7位 (27位)	<input type="checkbox"/> タイ	395.29	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
8位 (34位)	<input type="checkbox"/> 香港	309.93	+2	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
9位 (35位)	<input type="checkbox"/> マレーシア	296.22	-1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
10位 (39位)	<input type="checkbox"/> シンガポール	292.73	-1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
11位 (40位)	<input type="checkbox"/> フィリピン	291.97	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
12位 (41位)	<input type="checkbox"/> パキスタン	269.97	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
13位 (46位)	<input type="checkbox"/> バングラデシュ	205.72	+1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
14位 (50位)	<input type="checkbox"/> ベトナム	191.45	-1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
15位 (66位)	<input type="checkbox"/> スリランカ	82.10	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
16位 (68位)	<input type="checkbox"/> ミャンマー	66.98	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
17位 (83位)	<input type="checkbox"/> マカオ	46.18	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
18位 (106位)	<input type="checkbox"/> ネパール	21.36	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
19位 (110位)	<input type="checkbox"/> カンボジア	18.16	+1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
20位 (123位)	<input type="checkbox"/> ラオス	12.50	+2	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
21位 (125位)	<input type="checkbox"/> ブルネイ	11.79	-2	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
22位 (126位)	<input type="checkbox"/> モンゴル	11.74	-1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
23位 (158位)	<input type="checkbox"/> モルディブ	3.13	+1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
24位 (161位)	<input type="checkbox"/> 東ティモール	2.62	-1	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
25位 (162位)	<input type="checkbox"/> ブータン	2.21	-	アジア	<input checked="" type="checkbox"/>
-	合計	22,488.23	-	-	-
-	世界の合計 (189ヶ国) (アジア / 世界)	73,069.42 (30.8%)	-	-	-

※同位の場合は国名称順

アジアの GDP のほぼ半分を中国が占めている、これがアジアの実情であり、中国の実力なのです。

中国の社会学者の数は、もはや米国を抜き、世界一とされています。

ハーバード大学への留学者の数をご存知でしょうか？ 日本人は 11~12 名、対して中国人は 580 名、その人たちが中国へ帰り、もしくは世界で活躍し、中国の、中国人の存在感を日々増大させているのです。

また、このような資料があります。

世界的に進む主要国の高齢化(年齢の中央値)

	1980 年	2013 年	2050 年
日本	32.6	45.9	53.4
中国	22.1	35.4	46.3
アメリカ	30.1	37.4	40.6
ドイツ	36.7	45.5	50.5

移民を受け入れない限り、日本の高齢化は避けられず、このような世界情勢の中、日本のとるべき道は何でしょうか。

間違いなく「数で勝負をしてはいけない」ということです。

日本だけが持っており、金で買えないものが一つだけあります。

それは、「信用と信頼」です。

「あの、日本人が作ったものだから」「日本人が売っているものだから」という評価、これは大きな財産です。

長年かけて日本が培ってきたもの、日本が唯一誇れるものです。

では、これをどうしたら次世代へ承継していけるのか、それは「教育」しかありません。

日本は「立憲主義」「平和主義」を捨ててはいけません。

世界の軍事費を見てみましょう。

世界の軍事費のうち、アメリカは 30%、中国 10%、その後にサウジアラビア、ロシア、フランス、イギリス、ドイツ、日本、韓国と続きます。

この数字を見ただけでも判断できるように、アメリカと中国の戦力の差は歴然としており、中国がアメリカと戦争をすることはありません。

中国は自分たちの実力をきちんと見極めているのです。

国連の常任理事国に、なぜ日本やドイツを入れないのでしょうか。

また、G7になぜ中国、ロシア、インドを入れないのでしょうか。

世界 2 位の中国や 7 位のインドを抜きにして、世界経済を語ることはおかしいことだと言わざるを得ません。

これを是正できるのは日本とドイツしかありません。

日本は武力を行使しない、そんな日本だからこそ、世界から信用、信頼を得ているのです。

平和の中心的な役割を日本が果たす、これが日本の今やらなければならない仕事です。

2012 年の日中国交正常化 40 周年には、600 もの共同事業がありましたが、尖閣の問題でそのほとんどが消滅しました。

2017 年には 45 周年を迎えます。ここで両国がいかに協力し、国として親しみを持って付き合っていくことができるのかが試されています。

【5】最後に

神奈川 AOU の海外視察は、10 年ほど前に韓国で実施され、今回が 2 回目となります。

この 10 年の間に、日本のゲーム市場は大きく縮小しました。

平成 18 年に 7,029 億円だったオペレーション売上は、平成 26 年 4,222 億円に、店舗数は 2 万 3 千軒から 1 万 6 千軒となりました。

業界人の誰もが閉塞感を感じながらも、手詰まりで次の一手を打てないまま、多くの時間を重ねて来ました。

そんな中実施された今回の視察では、中国の規模、ダイナミックさとスピード感を肌で実感し、大いに刺激を受けてきたようでした。

特に、リデンプションやゲームカードシステムは、導入すれば売り場が活気付く即効性のある施策だとは思いますが、法律の問題やコストなど、努力だけではどうにもならないジレンマを感じていたようです。

ともあれ、日常を離れて広い世界に目を向けたことで、参加したメンバー全員何らかのヒントを得て、既にそれぞれの持ち場で 1UP したオペレーションを模索し始めています。

AOU の新体制移行により、今期以降、協会として予算措置をすることはできなくなりますが、是非すべての会員にこのような機会をもっていただきたく、今後も神奈川地区として企画を継続、恒例化していきたい考えです。

なお、このレポートは、参加者から提出されたレポートや意見、情報を集約し、AOU 神奈川事務局がまとめました。

以 上